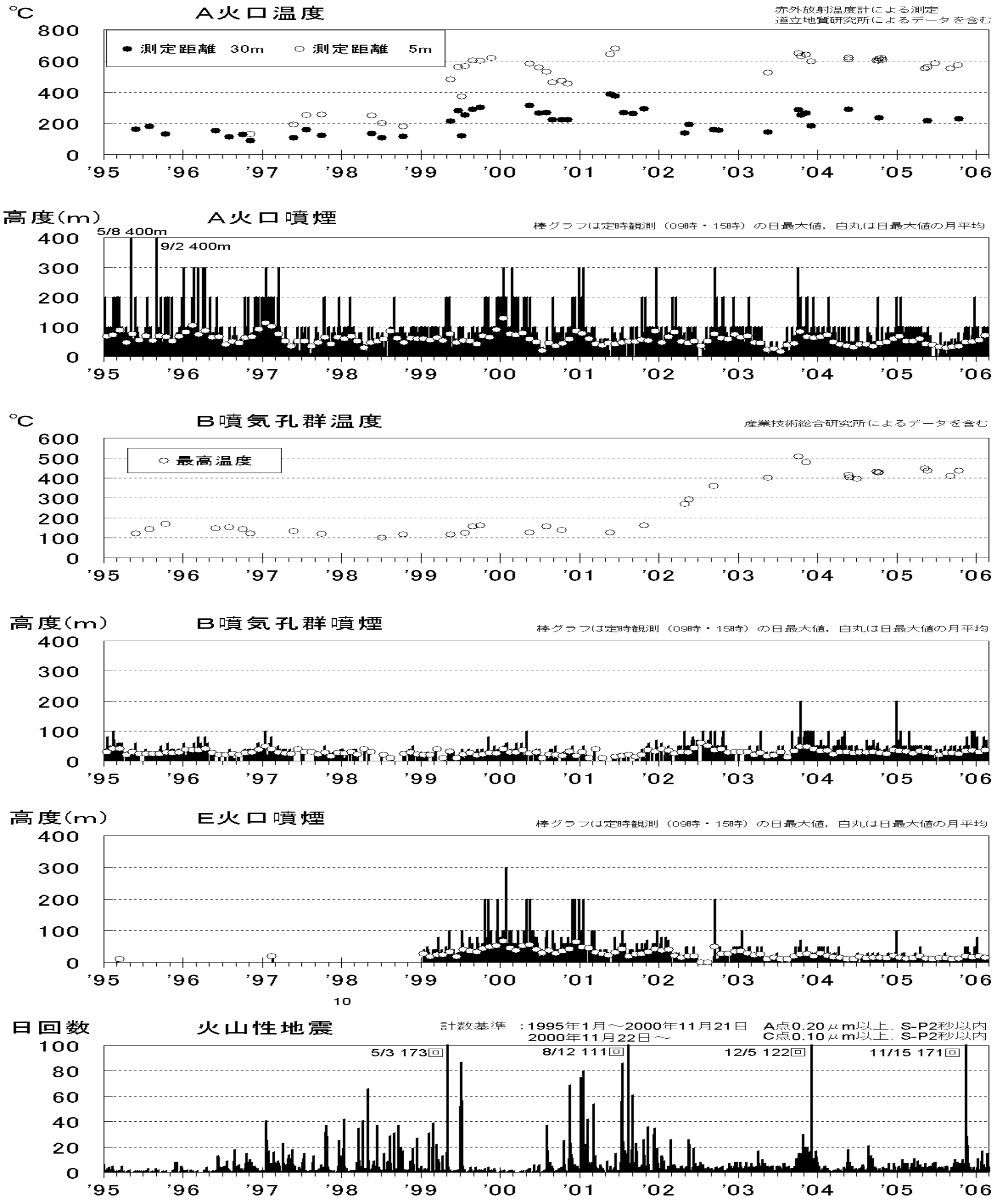
樽前山

1　概況

Ａ火口及びＢ噴気孔群の噴煙の状況に変化はみられていないことから、これらの火口の熱的な活動にも大きな変化はなく、高温の状態が続いていると推定されます。火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。



最近の火山活動経過図（1995 年 1 月 1 日～2006 年 2 月 28 日）

樽前山の火山活動解説資料は気象庁の他に、北海道のデータも使用して作成しています。
本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています。（承認番号　平 17 総使、第 503 号）

２　噴煙の状況

各火口の噴煙の状況は前期間と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね100m以下で推移しました。

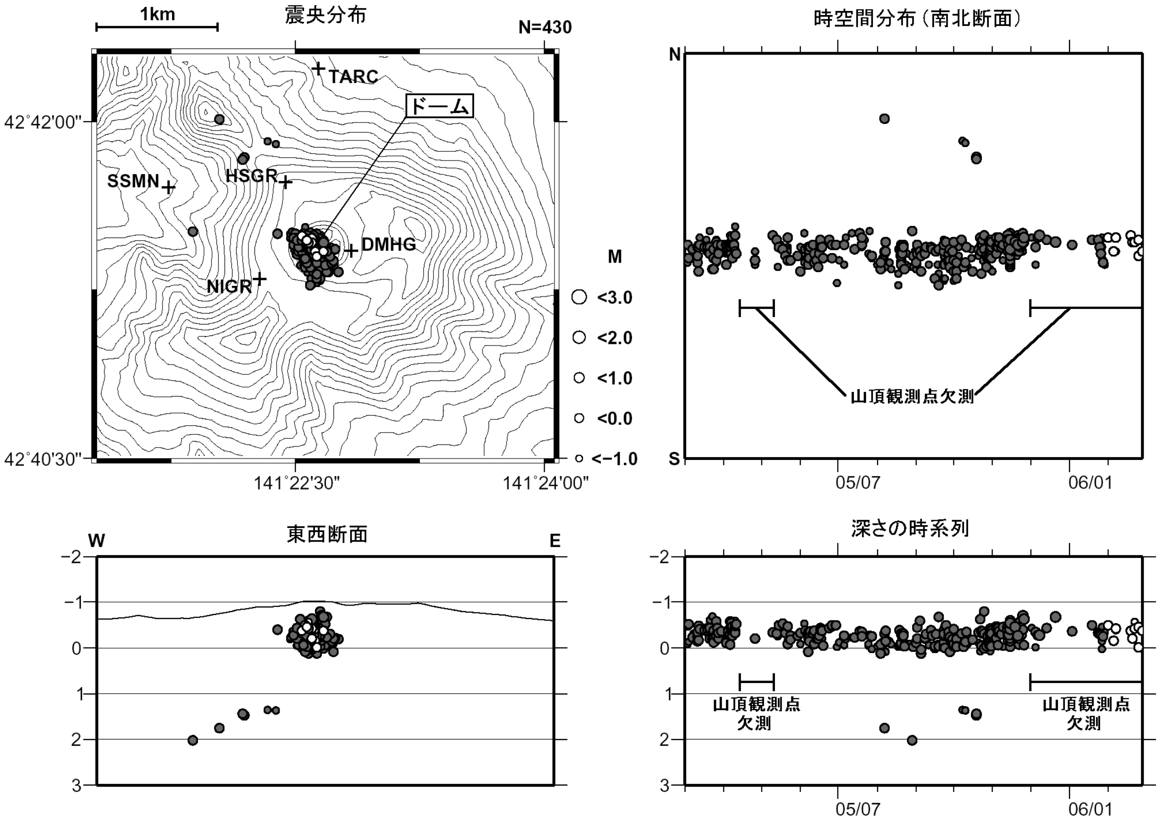
３　地震および微動の発生状況

火山性地震は１日あたり0～15回とおおむね平常レベルで経過しました。震源はこれまでと同様、山頂火口原浅部に集中していました。

火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数（Ｃ点）

2005～2006年	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
地震回数	77	62	46	75	33	46	50	96	349	38	60	78
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



樽前山の震源分布図（丸印：震源、＋印：地震観測点）

※2005年11月29日以降、山頂観測点障害のため樽前山の震源決定能力が低下しています。

○印は今期間（2006年２月１日～28日）に求まった震源を示しています（11個）。

●印は前期間までの11ヶ月間（2005年３月１日～2006年１月31日）に求まった震源を示しています（419個）。

震源は山頂ドーム直下の海面付近に集中し、ドームの北西及び西約 1.5Km 付近のやや深いところ（海面下約2km前後）にも分布しています。今期間に求まった震源は、山頂ドーム直下の海面付近に集中しています。

震源分布図の説明

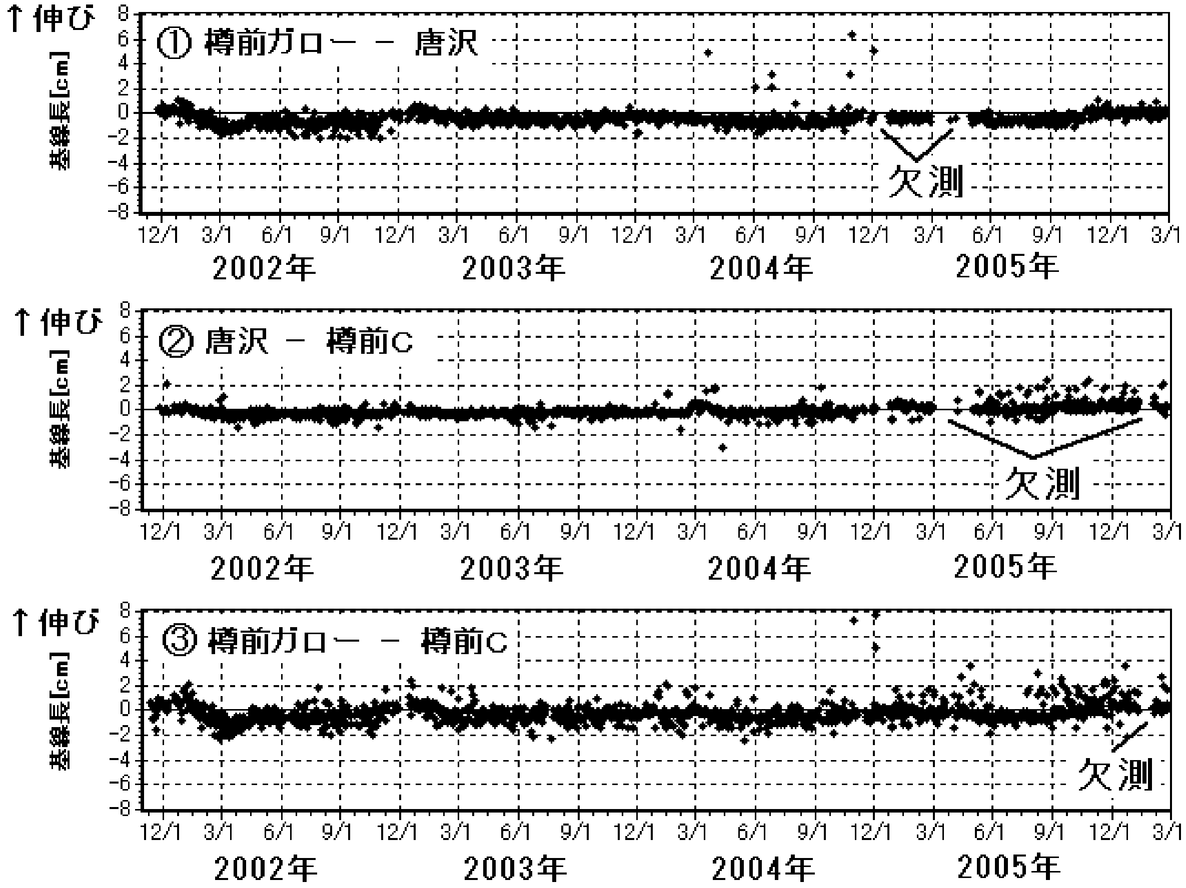
・東 西 断 面 ：震央分布で表示された範囲を東西面に投影して、地震の垂直分布を示した図です。

・時 空 間 分 布 ：震央分布で表示された範囲を時間経過とともに南北面に投影することで、震央の位置がどのように推移しているかを示した図です。

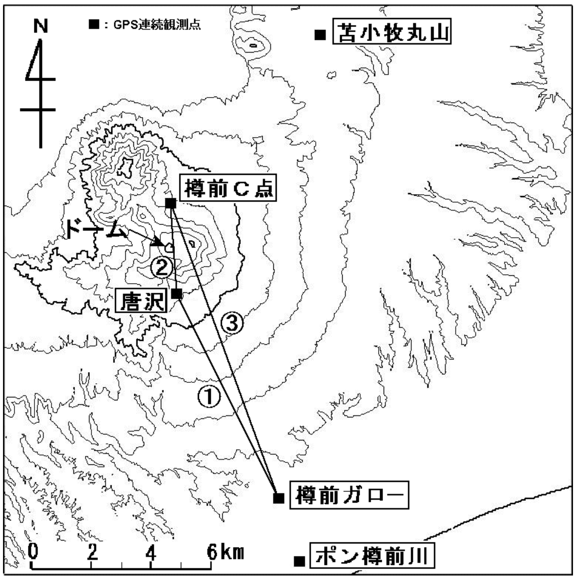
・深さの時系列 ：時間経過とともに震源の深さがどのように推移しているかを示した図です。

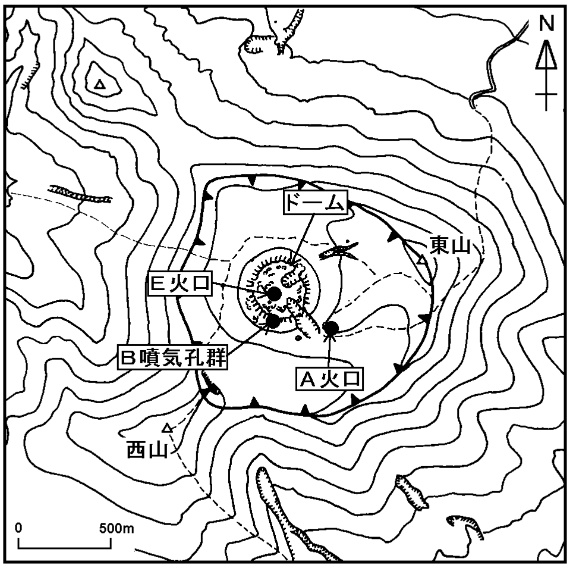
4　地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は観測されませんでした。



基線長変化（2001 年 11 月 14 日～2006 年 2 月 28 日）





樽前山山頂火口原図